

# 2022年度 社会情報学演習 ゼミ概要

## 【情報コミュニケーションコース】

### ■ 辻ゼミ (辻 泉) ■

○テーマ：「ポピュラー文化とメディア」

辻ゼミは、文化とメディアをこよなく愛する精鋭たちの集うゼミです。人一倍、何か好きなものがある、メディアについて関心がある、そういった学生たちが、日常生活で、身近に楽しんでいるもの、接しているものを、あえて振り返って研究対象にして掘り下げていく、そんなゼミです。ですから対象は、アイドルでもアニメでもゲームでも、あるいはスマホでもSNSでも、なんでも構いません。

そして、ポピュラー文化とはとても楽しいものです。ですが、それを楽しんで終わらせてしまうのではなく、その背景に存在する若者の自己やコミュニケーションの問題であったり、グローバル化といった社会変化と関連付けて理解することが重要でしょう。あるいはメディアという存在も、つい身近にありすぎて、あたかも空気の如く感じてしまいがちですが、その功罪について、深く掘り下げて理解する必要があるでしょう。

このように、我々にとって身近で楽しい文化やメディアについて、それを大真面目な研究対象ととらえられる方々と一緒に、その実態を考えていきたいと思います。関心のある学生諸君をお待ちしています！

○活動予定内容：

卒業研究論文・卒業論文に向けた各自のオリジナル研究報告と、文化社会学やメディア論に関する文献の購読を行います。文献購読は、要約者とコメンテーターを分担し、いくつかの論点についてゼミでディスカッションします。文献の例として、高野・飯田・加島編『現代文化への社会学』（北樹出版）、宮台監修、辻・岡部・伊藤編『オタク的想像力のリミット』（筑摩書房）、宮台・辻・岡井編『男らしさの快楽』（勁草書房）、馬場・池田編『「女子」の時代！』（青弓社）、土橋・南田・辻編『デジタルメディアの社会学』（北樹出版）などが挙げられます。年度末にはゼミ論文集を刊行しており、それ以外にも、夏には合宿やBBQ、季節ごとにもコンパを行って親睦を深めています。また3年生は、毎年恒例の個別進路面談を行っています。

ゼミ生たちの仲がいいのも特徴的で、卒業してからも時々ゼミに先輩たちが遊びに来てくれることがあります。新聞社や出版社といったメディア業界だけでなく、広告、不動産、銀行、流通、あるいは公務員といった様々な職場で活躍中の先輩たちは、いわゆるOBOG訪問の時だけでなく、これからの社会で活躍する学生諸君にとっても心強い存在といえるでしょう。

○卒論・卒業研究論文：

本ゼミでは卒業研究論文の分量について、2万字以上を原則とします。また卒業論文に果敢に挑む、ヤル気のある学生も歓迎します。

○その他：

ときどきゼミの様子を、ツイッター（ゼミ公式アカウント：@TsujiLab、個人アカウント：@izumi2z、）でもつぶやいています。ハッシュタグ「#中大辻泉ゼミ」でも検索してみてください。

以上

## ■ 松田ゼミ (松田 美佐) ■

### <ゼミ内容>

現代社会のありかたをメディアやコミュニケーションを軸として探ることを、本ゼミは目的としています。身近な人間関係や趣味・興味関心はもちろん、広く社会問題や社会の仕組みに関する事など、研究テーマは何でも構いません。自分が興味を持つことを、ゼミのメンバーと一緒に学問的に考えていきます。

大学で身につけるべきは、自分で問いを見つけ、答えを出す力です。

メディアやコミュニケーションという身近な軸を使いながら現代社会を研究対象とすることで、その力を楽しく身につけましょう。

そのために、ゼミでは研究手法や調査手法をもう一度復習し、メンバーで議論して研究テーマを掘り下げること、卒業論文もしくは卒業研究論文を大学4年間の集大成として執筆する準備をします。

2年間の大学生活を経て、研究テーマがなんとなく見えてきた人もそうでない人もいるかと思います。どちらにも対応しますが、後者だという人はゼミが始まるまでに集中的に探しましょう。アイデアは探さないと見つかりません！とはいえ、自分の日常生活の中で探すことができるのが、社会情報学のよいところでは。

なお、メディア関連の社会の変化にはそろそろついて行けなくなってきた教員に、いろんなことを教えてくれることも期待しています。教員ともゼミのほかのメンバーとも一緒に学び、教え合い、悩み、考えていきましょう。

### <活動予定>

各人が研究テーマを発見したり、深化させたりするために、メディアやコミュニケーションと現代社会に関する文献講読をしつつ、調査研究のための方法論（アンケート、インタビュー、観察、ドキュメント分析など）を復習します。また、それぞれの論文執筆に向けた研究報告（4年は卒業論文・卒業研究論文、3年はゼミ論）を並行して行います。

3. 4年とも個人面談をゼミ時間外におこなうほか、ゼミコンパや夏合宿をおこなう予定です（状況次第ですが）。

学年末には、3年生はゼミ論（10,000字以上）、4年生は卒業論文（卒業研究論文）の要約をゼミ論集としてまとめ刊行します。

### <卒業論文・卒業研究論文>

本ゼミは四年次での卒業論文執筆を推奨しています。卒業研究論文を選んだ場合でも、卒業論文と同じ20,000字以上を条件とします。

## ■ 宮野ゼミ (宮野 勝) ■

※2022年度末で宮野先生が退職されるため、2023年度は担当者が変更となる予定です。

### 【目標】

○宮野ゼミは、「人間」と「社会」について自分で調べられるようになること、しっかりしたエビデンスをもって書いたり語ったりできるようになることを、目指しています。「情報」や「データ分析」がキーワードになる今日、社会に出てからもあなたの大きな力になることを願っています。

### ○研究のテーマと方法

あなたが興味を持つテーマ、そして楽しんで研究できるテーマを選んでください。また、分析したいデータ・習熟したい研究方法を選んでください。複数のデータや方法を使えるようになると、研究を深めたり、いろいろなことができるようになります。データを分析して、面白い有益な情報を引き出せるようになりましょう。

### 【進め方】

○3年生の早い段階から調査してデータを分析し、レポートにすることを学習します。調査を通して色々な考え方に触れると、世界の見え方がガラリと変わります。

従来は、ゼミの仲間との共同調査（主としてアンケート調査、テーマは、SNS・著作権意識・メディアリテラシー・食意識・幸福感・マナー意識・ジェンダー観・広告評価・ゲーム、などなど）をしてきました。ただし、2021年度は個人研究となりました。参加者と相談して決めます。

○3年生は個人研究でゼミ論文を書きます。テーマと方法は自由です。アンケート調査を主とするゼミ生が多いですが、インタビュー調査やドキュメント分析（たとえば小説）・公開されているアンケート調査データの二次分析などを主とする場合もあります。

4年生には卒論執筆を勧めています。

○ゼミはみなさんの発表とコメントが中心になります。

自分で調べて考える力と、発表・対話する力の育成を目指しています。

○適宜、個別面談をしてサポートします。ゼミと併用することで、研究が進みます。

### 【その他】

○（新型コロナの状況が許せば）夏合宿を行う予定です。原則として全員参加。仲間意識がぐんと深まることを期待しています。

○モデリング（=社会情報学研究法）、データ解析の初級・中級の未履修者には、平行履修を勧めています。

## ■ 安野ゼミ (安野 智子) ■

○テーマ：「社会調査で人間の行動を探る」

このゼミでは、人間の判断や行動を、「データに基づいて」実証的に解き明かしていくことを目標としています。担当教員の専門分野は、世論・世論調査・社会心理学ですが、研究テーマは個人の自由です。過去の卒論のテーマは、友人関係、消費者行動、趣味(音楽、ゲームなど)、スポーツ(スポーツファン、箱根駅伝)、SNS、就活、結婚、食生活など、多岐にわたります。

たとえば、ソーシャルメディアにはまる人とそれほどでもない人はどう違うのでしょうか？それはなぜでしょうか？ソーシャルメディアで孤独感は和らぐのでしょうか？それとも他人と比較して落ち込んでしまうのでしょうか？こうした疑問を、実際に調査を行い、データ分析の結果をもとに考えていきます。テーマによっては、(公開されているデータの)二次分析、簡単な実験、インタビューによる卒論も推奨しています。

調査票を設計し、たくさんの人の意見を聞けるのは楽しいことです。統計分析は、最初は少し大変かもしれませんが、根気強く取り組めば、とても強力な道具にもなります。社会調査や質問紙の設計、統計分析などのスキルを身につければ、マーケティングやマスコミ・公共の調査などを始め、社会でもさまざまな場面で活用できます。(ただし慣れるまで、少々忍耐と努力は必要です。)いわゆるアンケート調査をしなくても、購買データや人口統計など、データ分析の対象は幅広いのも魅力です。それ以上に、自分の疑問がデータで解き明かされたときのうれしさは格別です。ぜひ一緒に味わいましょう！

○活動予定：

2022年度の授業は次の3つの方針で進めます。

- (1) 前期の前半は文献を購読し、ディスカッションを行います。2021年度はチャルディーニ著『影響力の武器 第3版』(誠信書房)を読みました。
- (2) 前期の後半は、グループ研究を行います。3～4の研究テーマに分かれ(例として「美容チーム」「アイドルチーム」「女子マネチーム」)、みんなで仮説を立てて、小規模なウェブ調査を行います。
- (3) 後期は、3年生・4年生ともに、個人の研究テーマに基づいてデータを集め、論文を執筆します。個人研究は、前期から個別相談も併用して進めます。ソフトウェアの使い方、分析結果の読み取りなどは随時補習などでサポートしていきますが、「データサイエンス演習」の授業を履修しておいていただけるとスムーズです。

例年、夏休みにはゼミ合宿を実施し、親睦を深めていましたが、2020～2021年度はコロナ禍で実施できませんでした。2022年度はぜひ復活させられるといいなと思います。

○卒論・卒業研究論文：

本ゼミでは、卒業論文は2万字以上、卒業研究論文は1万字以上の分量を条件とします。卒業論文は必修ではありませんが、執筆を強く推奨します。年度末には毎年ゼミ論集を刊行しています。(CD版か冊子版かは4月に相談して決めます。)

## ■ 浅岡ゼミ (浅岡 隆裕) ■

本ゼミでは、メディアやコミュニケーションが介在することで生起する現象を社会学、メディア理論ほかの概念装置を援用して、自らの視点によって分析します。その社会的メカニズムを説明することの面白さ・奥深さを経験してもらいます。目標はメディア&文化分析の技法の習得にあります。とくに、分析の道具としての様々な社会調査（インタビュー、アンケート、ドキュメント（メッセージ）分析、観察等）それぞれの特性を踏まえ、いずれかを選択・実施し、実証的な研究をしていきます。

前期に文献・資料を講読する中で“研究する”ことのイメージを共有し、後期には全員で相談してゼミ共通テーマを設けて、それぞれのグループの調査研究活動を通じて、テーマについて総合的に解き明かしていきます。

共通テーマは「若者の現在」(2010)、「メディアのチカラ」(2011)、「今どきの若者のメディア&ライフ」(2013)、「大学生の嗜好」(2014)、「ドキュメントを通して見えてくる現代社会」(2015)、「インターネット時代の表現文化」(2016)、「いいね世代の〇〇行動、意識」(2017)、「平成最後の若者たち」(2018)、「令和元年の若者たち」(2019)「個人化と多様化の時代」(2020)と展開してきました。21年度はスマホの功罪、コロナ前後の消費行動の変化、性的マイノリティ、ファンコミュニティといった具体的な分析対象からアプローチしています。メディア&コミュニケーションに主軸を置き、私たちに身近な消費・エンタメ、ライフスタイル、地域社会との関わりなどがテーマとして想定されます。

本学を卒業し、広告会社でのキャリア（企業のコミュニケーション戦略立案とマーケティングリサーチ業務）を持ち、現在、複数地域での魅力発信プロジェクトに携わっている教員が2年間指導します。ゼミ受講者が執筆・編集した研究成果報告書（＝ゼミ論文集）創刊～14号は、社会情報学研究室（3号館4階）、社会学研究室（9階）で閲覧可能です。画像もふんだんに取り入れたゼミ1年間の記録も掲載されておりますので、受講希望者はぜひご覧ください。ゼミ論文集は、社会学会・社会情報学会の各ゼミ紹介資料の中で、PDF形式でご覧になれます。

4年生には卒業論文、あるいは卒業研究論文に取り組んでいただきます。

## ■ 塚田ゼミ (塚田 修一) ■

### ○テーマ 都市・文化・メディア

本ゼミでは主に担当教員の専門である①都市空間と文化、②文化とメディア・コミュニケーションがカバーする（あるいは重なる）領域を扱います。2021年度は、都市空間をフィールドとして、都市と人との関わりや都市政策、都市における文化現象やメディア・コミュニケーションの様相などを考察しています。

身の回りの様々な現象を真剣に面白がれる学生、またフィールドワークに積極的に取り組む意欲のある学生を歓迎いたします。

なお、担当教員の専門分野については、『国道16号線スタディーズ』（青弓社）や『アイドル論の教科書』（青弓社）、『近頃なぜか岡本喜八』（みずき書林）などを読んでみてください。

### ○活動予定内容

ゼミ生の興味関心に合わせて、①各自の研究テーマに関連する文献購読およびメディアテキスト（映画やテレビドラマなど）の分析実践と、②都市空間のフィールドワークの二本を柱に、①と②を往復しながら活動していきます。

そのうえで、4年生は卒業論文・卒業研究論文の執筆を、3年生はインカレ合宿での発表およびゼミ論文の執筆を進めてもらいます。学年末には、ゼミ論集を刊行します。

夏休みにはインカレ合宿を実施し、主に3年生が研究テーマについてプレゼン大会を行います。希望があれば、4年生向けに卒論・卒業論文構想を検討する合宿も行います。また、折に触れ、フィールドワークを企画します（2021年度は渋谷でフィールドワークを行いました）。

### ○卒論・卒業研究論文

本ゼミでは、卒業論文・卒業研究論文とも2000字以上を原則とします。卒業論文は必修ではありませんが、執筆を強く推奨します。執筆に際しては、担当教員が最大限にサポートします。

# 【図書館情報学コース】

## ■ 常川ゼミ (常川 真央) ■

テーマ：「データと社会課題を図書館情報学でつなげる」

本ゼミでは図書館情報学の知見を学びながら、皆さんが関心のある社会課題に対してオープンデータをどう活用できるのかを模索し、そのための情報システムを提案することを目指します。図書館情報学は学術情報資源のひとつとしてデータをいかに組織化し、人々に提供していくかを探究していきました。皆さんが日頃抱いている悩みや違和感をゼミでのディスカッションを通じて社会課題として整理しつつ、図書館情報学を学ぶことで自分を取り巻く社会問題の解決にデータを活かす仕組みづくりを習得します。

活動内容・進めかた：

卒論・ゼミ論など：

中央大学Google アカウントにログインのうえ、以下をご参照ください。

2022 年度常川ゼミの方針

動画：<https://youtu.be/DPVrxRlcGmM>

スライド：<https://drive.google.com/file/d/1gskMhHbgrknsKiOW94QLf6picqMd7KD/view?usp=sharing>



動画 URL



スライド資料

## ■ 桑田ゼミ (桑田 てるみ) ■

- ・ テーマ : 「アクティブ・ラーニングで考える最先端の図書館」

急速に変化する社会に求められる最先端の図書館について考察したいと考えています。常に新しい情報を得るだけでなく、自分で行動し考えるアクティブな学びを行います。私は、新しい社会に対応して変化し始めた最先端の学校図書館について研究していますが、ゼミでは、皆さんの興味関心を大切に育てます。学校図書館はもちろんのこと、公共図書館、大学図書館など館種を問わず、様々な角度や論点から、最先端の図書館活動に関する考察を広げたいと考えています。

- ・ ゼミの進めかた :

前期は全員がアクティブに取り組むテーマを設定します。過去には「学校図書館改造プロジェクト」を立ち上げ、実際に図書館改造などを手がけました。2022年度は、「最先端の図書館」をキーワードにしつつ、具体的には受講者と相談しながらテーマを決めます。夏休みにはゼミ合宿で交流を深め、後期には、卒論、ゼミ論の執筆を本格化させる予定です。

- ・ 卒論・ゼミ論など :

4年生は原則として卒業論文に取り組みます。3年生のゼミ論文は、卒業論文で取り組むテーマを決定するための研究ノートの位置づけと考えています。執筆は、個別相談をしながら進めていくことになります。



## ■ 長谷川ゼミ (長谷川 幸代) ■

### < テーマ > 「社会における図書館を考える」

このゼミでは、現代社会における図書館を多角的な視点から考察します。勿論、歴史的な背景も現在の図書館を創る重要な要素ですので、過去の図書館のことを取り上げることもあります。

具体的な例としては、図書館の社会的な意義やニーズを検討するために、統計や調査結果を利用して分析する。図書館運営に欠かせない制度や情報メディア関連の環境と法について調べ、現代の図書館の在り方を考える。図書館利用の効率を高めるための仕組み（例えば分類や資料・読書案内など）について検討する等があります。図書館が社会の中で役割を果たしていくために、「図書館」そのものと、それに付随する人々の行動や資料の在り方について柔軟な姿勢で考えていきたいと思えます。皆さんのアイデアを大事に、共有しながら発展させていきましょう。

### < 活動内容 >

データベースでの情報検索と文献購読を基礎として、3年生は各自の研究テーマを決定し情報収集をしながら、検討を進めます。4年生は、自分なりのテーマを決定して、執筆の構成を考えながら研究成果の発表を行う予定です。

### < 卒論・卒業研究論文 >

4年生は、ぜひ卒業論文に取り組むことを推奨します。3年生はゼミ論文を執筆していく予定です。執筆テーマ・内容は、授業での発表、個別相談を通じて一緒に考えていきましょう。

以上